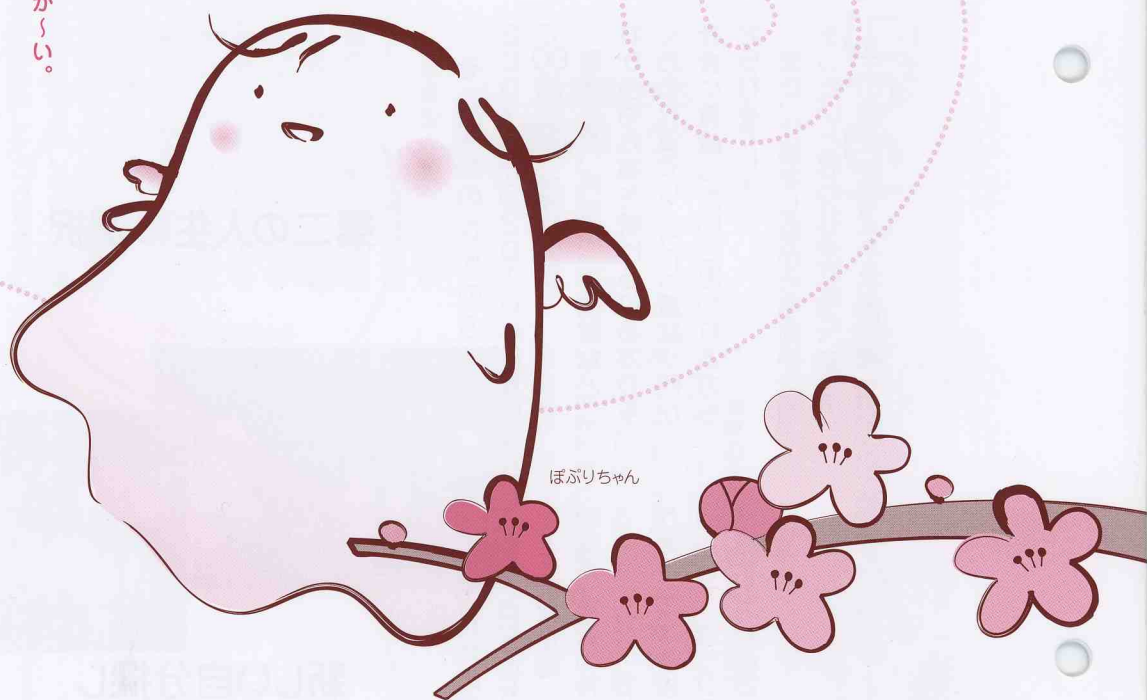


# Compass

Vol.32

春の風って、やわらかい。  
その風によって  
気持ちよさそうに飛んでる鳥や  
色とりどりに咲く花を  
見ているだけで幸せだね。  
ボランティアって  
風や鳥や花になることかもしれないね。



## 特集

- 「団塊の世代へのメッセージ」 ..... 2～5
- ホームページ講座報告 ..... 6
- ひと・まち・くらし(市町村社協紹介)  
桜井市社会福祉協議会 ..... 7
- ひと・まち・くらし(市町村社協紹介)  
平群町社会福祉協議会 ..... 8
- ホットなボランティア・市民活動  
特定非営利活動法人ママの里  
NPO法人地域活動支援センターぷろぼの ..... 9～10
- 情報アンテナ  
助成金情報 ..... 11
- ボランティアセンター こぼれ話  
編集後記 ..... 12

名前 : ほぶりちゃん

名付けの意味 : 「ボプリ」はそれぞれ全く違う香りをもつハーブや香料を調合して詰めた瓶・壺です。それに同じくボランティア活動も雑多とした個々の個性的な活動の集まりと考えられないでしょうか？奈良県でのボランティア活動一つ一つが全体として調和され、住民個人や地域社会全体にとってボプリの芳香のように幸せをもたらすものであることを願って「ほぶり」と名付けました。

姿のイメージ : ボランティア活動は、個人の自発的な意志に基づく独創的かつ自由な活動であることから、不定形であって、自発性・自由度を象徴する羽根を持ち、他者へのちょっとした好意を表すハートを灯した天使の姿をイメージしています。

## 「団塊世代へのメッセージ」

### 団塊の世代とは

団塊の世代とは、作家の堺屋太さんの小説から名付けられた言葉です。昭和22年（1947年）から昭和24年（1949年）頃に生まれた世代のことを言います。

第2次世界大戦後の第1次ベビーブームに生まれた世代であり、3年間に約800万人の子どもが生まれており、特に昭和24年には年間269万6638人の子どもが生まれました。平成18年の出生数は109万2662人ですので、どれだけ多かったのかが想像できると思います。

### 第二の人生の選択

その団塊の世代の方々は、2007年から2010年にかけて60歳（定年）を迎えます。

雇用延長、再雇用、再就職などこれからも仕事を続けられる方も多くおられるでしょうし、趣味や何か社会に貢献したいと思われる方もおられるでしょう。

また、仕事をしながらも何か活動をしたいと思われる方など、第二の人生の選択肢も人それぞれ様々でしょう。

### 新しい自分探し

一つの選択肢としての  
ボランティア・市民活動

団塊の世代の方々には、戦後第一世代として日本の社会を築いてきた経験と能力（企画・交渉・技術・事務処理など）を沢山持っておられます。

様々なセカンドライフの過ごし方がある中で、今までの経験と能力を活かして、ボランティア・市民活動に参加するのも選択肢の一つです。

そこで今号では、「団塊の世代へのメッセージ」をテーマに、実際に地域やNPOなどで活動しておられるお二人の方に、団塊の世代の方々へのメッセージを発信していただきました。



# 退職後の生きがいについて ～地域に居場所をつくる～

秋篠川源流を愛し育てる会 事務局長

橋本 哲夫

## 会社員時代の状況

私は66歳です。実は私の生まれた昭和16年は戦前の団塊世代だったので。小・中学校の教室はすべて満杯、就職競争も激しかったのです。だから団塊世代の皆さんが経験することを少し前に経験した世代といえます。でも私たちの世代はその直後の世代が急減したこともあり、一時的現象として片づけられた様な気がします。

私は昨年、会社員生活を卒業しました。若い頃は週休2日制も無く、殆どの時間を会社中心に過ごしてきました。子育てを含めた家庭や地域のごとはすべて妻任せ、1週間子どもも起きていた姿を見なかったことも度々でした。いわゆる「会社人間」が当たり前の時代でした。今思うと妻には本当に苦勞をかけたかと反省するとても感謝しているところです。

## 単線型から複線型人生へ

日本人は単線型人生の人が多くと言われています。学生時代は勉強だけ、会社員時代は働くだけ、定年後はすること無くてひまー、という人生です。これをどのライフステージでも働き、学習し、遊ぶことを同時にしていくというのが複線型人生で、そのほうが充実した人生になるといって考えます。

私の場合、そのきっかけは40歳の時に奈良市に引っ越してすぐ地域の走友会に入会したこと。この会はもともと幼稚園の父親の会として発足したもので、会員は同世代の男性約30名です。走るだけでなくハイキングや、登山などを楽しんだり、飲み会にもよく行きます。さらに地元のマラソン大会のお世話、幼稚園行事の手伝い、障害者陸上教室の指導といったボランティア的な事も行うようになりました。休

日に地域の仲間といろんな活動ができたことは、やや大げさに言えば私の人生観を変えました。複線型人生に切り替えることによつて、新しい世界が開け、視野が広がったような気がします。

## 地域での居場所づくり

50代になり、退職後の生活について考えるようになりました。退職後は拠点が会社周辺から、住まいのある地域へ移ります。そのため地域活動等を通じて地域に居場所をつくる必要を感じていました。

平成8年にそのきっかけを掴みました。奈良市が市制百周年を迎えるにあたりその記念事業のアイデアを募集していました。ランニング仲間と相談して練習コースの「秋篠川に桜を植樹し、それぞれの木の里親を募集し、皆で桜を育てるとともに、そこをふれあい、いいい、ときめきの場にしていく」というアイデアを出し、採用されたのです。平成10年に桜11本を植え、植樹祭を開催しました。その後里親の皆さんと一緒に月1回の川掃除と桜の世話を今も続けています。

秋篠川夜桜まつり



秋篠川クリーンキャンペーン



清掃風景



そのほか「燈火夜桜祭り」や「川遊び大会」なども行っています。これに参画したことで地域の多くの人と交流ができ、地域の課題も知るようになりました。また奈良市グリーンホールの指定管理者の一員にもなり、ホールの主催事業として子ども居場所づくり「遊びの城」や、中高年向けの「いきいきライフ塾」といった事業にも参画して、地域に少しでもお役に立てることを願って活動しています。



遊びの城「もちつき大会」



遊びの城

## 団塊世代へのメッセージ

私は退職して約半年経ちましたが、このような活動を通じて、忙しいけどよい企画ができた、参加した人が喜んでくれたりすることで生きがいを感じています。

充実したセカンドライフを送ることは団塊世代にとっても課題の一つだと思いますが、人様さまなので、これが一番というものはありません。生きがいを感じるステップとしてはやりたいことを①一人で行う、②仲間と一緒にやる、③誰かのためにやる、があります。普通①→②→③の順で生きがい度は高まるといわれています。このステップを無理せず進んでいくのがよいかと思えます。

皆さんは今まで仕事を通じて社会に貢献しているという実感をお持ちだと思えます。それが生きがいになっている人も多いと思います。ただ退職後のんびり、気楽に過ごすと考えている人も多いかと思えます。それもよいのですが平均寿命が延びた今、退職後の自由時間は労働時間に匹敵する膨大な時間があります。この時間を生きがいを持って過ごすことは大切なことです。そのためには自分が何か社会で役に立っているという実感が得られる活動に、ステップアップすることが大事ではないでしょうか。そのきっかけをいま積極的に掴んでいただくことをお勧めいたします。

# 障害者との出会い

特定非営利活動法人 自然塾 理事

野内 俊治



## 40~50代の心と体のスランプ

昭和18年1月8日生まれで今年65歳になりました。

団塊の世代よりちよつと上の世代です。どの方にも訪れる「老い」は、私には津波のごとく結構粗雑あらざらしく登場したものです。

そしてわが身が50歳の年齢を聞いた時、それからの残りの人生の締めくくりとそして今生の幕引きに何を飾ろうかと考えました。そのちよつと前、即ち40代に精神世界を流浪して「生」に光明を見出し始めた頃、一方で生活の厳しさに押しつぶされそうに日々を過ごしていたのです。

本業は機械設計事務所を営み、それなりに仕事も順調にこなしていたのですが、突然に凶面が描けなくなったり、アイデアが思い浮かばなくなったり、スランプのような苦しみに出会ったのです。決して身体に不調を来たしたのではなく、捉えようのない不可思議な力が自らの頭脳と手との働きをストップさせるのでした。何なんだろつここれは？オカルト的に云えば、神か悪魔かはたまた人智を超えた仕業だったのだろうか。

## 新しい人生との出会い

この時から人生の指針が変わりました。予想だにしない人々と、それまでの人生のルールにない出来事との出会い、まるでルールのないゲームをしているようなものでした。

自然農法や水耕栽培、気功療法、瞑想、ヒーリング、宗教や心靈や無意識の世界等まったく脈絡のない彷徨いが、ある日突然に頭の中で、心で繋がりはじめ全体意識のなかで「個」に左右していた己を見出したのです。

これが締めめの人生の序章だったのでしょか。そして現在障害者の施設を一緒に立ち上げている理事長との予期しない出会いまで。

全体意識の中では偶然ということではなく、すべてが自ら招く必然しかないのです。人はただそれを選択するかの否かを任されているにすぎないのです。

出会いの初め、龍村仁監督の「ガイヤシンフォニー」の自主上映会を主催することでした。自主上映会の後、冷めやらぬ中で私に行く末の道を見させてくれました。

「障害者や高齢者及びその家族に対し生活支援などの事業を行うことで福祉を増進するとともに、自然農法

の普及をすすめる事業を行う」を基にその「場」を作ろうとNPOを立ち上げました。

「場」を進めていた時、障害者を取り巻く状況を考えれば社会福祉法人と施設建設に取り組む必然が生じ、今その渦中にあります。すさまじい勢いの日々で「老い」に鞭打つ暇ありません。しかしまだ幕が上がったばかりです。

そして今、障害者福祉に明確に足らざるが見えてきました。

## 団塊世代へのメッセージ

障害者に豊かな賃金を生み出す仕事と、それを支える豊かな人材を用意することや、日々の生活を支える仕組みを作っていくことで障害者の豊さが考えられます。

障害者福祉は、福祉の専門家がつかえるものと思つて、足も踏み入れない世界のように感じていたのですが「老いること」がまさしくそこに直結していて、全ての人の行く末にあることを実感し、障害者はその生き様で私たちにその在り様を

示してくれているのでした。障害者の日々の生活の安定は介護内容、関わり方によって大きく変わります。

そこには、福祉に関わる情熱と社会性、幅広い能力(障害の種別に関係なく、様々な年齢層と、様々なニーズに対応できる能力)を持ったスタッフの存在が不可欠です。障害者の生活の質の安定と向上はスタッフの資質が大きく影響いたします。

豊かに人生を過ごした団塊の人たちの知恵と育んできた技を第二の人生に活かす道がここにもあります。それぞれの高いスキルをここに活かしてください、スタッフの身分や待遇の保証を考え、障害者の生活の質の安定に助成していただき、社会福祉法人として明確に立ち上げて、仕事や人材が多く訪れ、育つことを一緒に担ってください。ことを期待するのです。



みんなの家“ていーだ”の全景  
※“ていーだ”とは沖縄の言葉で「太陽」です。

# 「ボランティア・市民活動ホームページ立ち上げ講座」開催

「自分たちの活動を外に向け発信し、情報ネットワークを広げよう！」をテーマに「ボランティア・市民活動ホームページ立ち上げ講座」を1月25日～27日の3日間連続で開催しました。

県社協では、平成16年度から「ボランティア情報検討委員会（チーフ・奈良中央信用金庫 水上氏）」を設置して、ボランティア関連の情報提供のあり方やボランティアセンターのPRなどについて検討してきました。

今回の講座は、ボランティア団体自身が情報発信力を身につけ、団体活動の啓発やインターネット環境を活用した団体間のネットワークを広げることを目的に実施しました。

講師は、検討委員会のメンバーの窪井さん（地球くらぶ）と河内さん（ヤマト・ネットクラブ）で、9団体（参加者19名）からの受講がありました。

プログラムは、窪井さんオリジナルのテキストに基づき、実際にパソコン上でホームページの基礎知識・サイトの作成・トップページ等のページ作成・リンク設定・サイトの転送という具体的にホームページを立ち上げる手順で行いました。

講習後には、受講したいくつかの団体

に講師の窪井さんがフォローアップを行い、ホームページ立ち上げの準備がすすんでいます。

ボランティア・市民活動団体がホームページを立ち上げることにより、「様々な団体同士のつながりを広げる」「団体の主体性が育まれる」などといった効果が生まれます。

今回講師を担当いただいた、窪井さんからも以下にメッセージをいただきました。



講座の様子

## ボランティア・市民活動を知らせよう、広めよう！

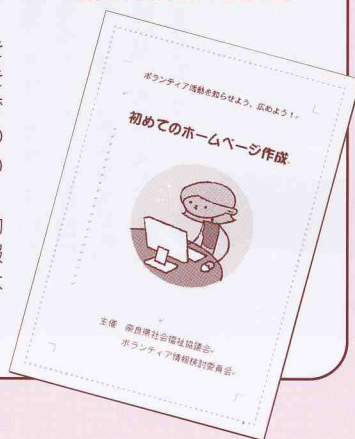
平群町「地球くらぶ」 窪井紀子

私はボランティア情報検討委員会の一員として「ボランティア・市民活動ホームページ立ち上げ講座」の企画運営に参加し、本講座の講師をつとめさせていただきました。委員会では3年にわたりボランティア・市民活動を活性化させるための新たな情報ツールを模索していく中で、紙媒体の情報発信に留まらず、ボランティアや市民活動団体が自ら情報を発信することが活性化につながるのではないかと認識のもと、ホームページ作成講座の企画を進めました。

情報収集のツールとして、今やホームページはなくてはならないものとなっています。自分たちの活動に参考になるような事例を探す時や、近くに同じ目的を持った仲間探しなどが容易に出来る時代になっていますが、情報収集と同時に、自分たちが持っている情報も積極的に公開することによって、双方向性のある情報交換が可能となります。

「ボランティア・市民活動ホームページ立ち上げ講座」に関して委員の中で確認したコンセプトは、単なるホームページの基礎講習だけではなく、サイトを実際にインターネット上にアップロードするという実践的な内容でした。受講者はボランティア連絡協議会、NPO、社協などさまざまであり、幅広い年齢層の集まりの中で、講師として分かりやすいサイトの構築に心を砕きました。具体的に家を建てることをイメージしながらトップページ、サブページを作成し、画像やイラストを挿入し、それぞれのページへのリンクも貼りました。3日後、無事アップロードに成功したときは、あちこちから歓声が上がリ、講師としても大変幸せな瞬間でした。

私事ながら、平群町ボランティア連絡協議会のホームページを2005年に立ち上げ21団体すべての活動を発信し、日々更新を心掛けています。幹事会や総会、交流会などの折、参加者全員でサイトを見る時間を持っていますが、それによって「他の団体の活動を知ることができ、連帯感が生まれ、自分たちの活動に誇りを持てるようになった」という嬉しい成果が見られています。今回、奈良県内で活動するボランティア・市民団体に対して、活動の輪を広げるためのお手伝いが出来たことをボランティア情報検討委員会委員一同大変嬉しく感じています。これからもみんなで活発なボランティア・市民活動をすすめていきましょう。





# あなたの「二歩」を応援します！ 桜井市ボランティアセンター (桜井市社会福祉協議会)



桜井市ボランティアセンターは、平成9年の開設以来、ボランティアの総合窓口として、多くの方々に幅広くご利用いただいています。

本センターでは、地域のふれあいサロンから「ネタ不足」の相談をうけ、ボランティア講座「福祉レクリエーションの会」を定期的に開催しています。講座では、「お金をかけず、狭い会場に合わせ、みんなが参加でき、楽しく盛り上がる…」

様々な要望が出され、企画したレクリエーションを試しアレンジしながら、各自が活動に合ったオリジナル：ネタを見つけ、地域に持ち帰り、実践されています。「地域の声」を大切に、今後も活動支援につながる事業を展開したいと考えています。

また、地域福祉への理解や人材育成の取り組みとして、毎年7・8月にボランティア体験事業「ふれあいサマー」を実施しています。障がいをもつ方々と一緒に作成した「大型紙芝居」は、様々な行事で上演

を重ね、今もなお、ふれあい活動は

継続しています。「車いすダンス&パレー大会」では、振付やルールを工夫し、障がいや年齢を、みんなの気づきで支え合う姿に、「現場が一番」を痛感！新しい出逢いは、思いもかけない発想やパワーをつみ、ボランティアの裾野を広げる可能性にあふれていると実感します。

社会の変化にともない、ボランティ

アのニーズも多種多様で、グループ活動の資金不足や活動者の高齢化、地域により異なる問題など、課題は山積みです。様々な課題に目をむけ、地域の声に耳を傾け、住民、ボランティア、団体、学校、自治体そして社協が連携しながら、それぞれの役割と特性を認識し活かしながら、住民の思いに寄り添いながら、問題解決に取り組みたいと考えます。

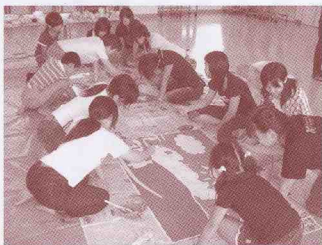
「ちょっと聞かせて…」と電話が

かかり、「巧みにきたから…」と、ちよと立ち寄れるそんな『ちよと』を、一歩ずつ、ボランティアの歩みにつながらよう、みなさんに気軽にご利用いただけるボランティアセンターとして、多くの方々の『ちよと！』が集まる地域力向上の発信拠点でありたいと願っています。

ダンスって楽しいなあ～！  
(車いすダンス)



パワー炸裂！ふれあい交流  
(車いすパレー)



ボランティアが集まって手づくり看板完成！(ボラセン看板づくり)

## ●お問い合わせ

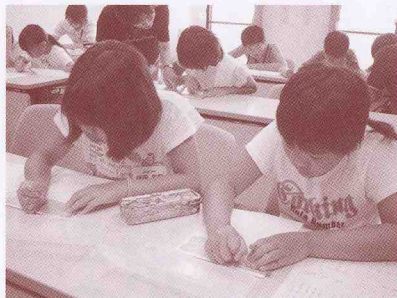
桜井市社会福祉協議会 ボランティアセンター  
〒633-0091 桜井市大字桜井535-1  
TEL:0744-42-2724  
FAX:0744-46-5052



# 平群町社会福祉協議会

平群町社会福祉協議会では、ボランティアセンター機能を活かし、さまざまなボランティア活動の支援や各種研修をおこなっています。

夏休みには恒例の「ボランティアスクール」を開きます。これは、平成9年度からおこなっているもので、町内在住の小学4年～中学3年の児童・生徒のみなさんを対象として、「心で感じる体験」を通して、ボランティアへの関心を持ち、優しい心を育んだりしてもらえるような体験の機会を設けています。

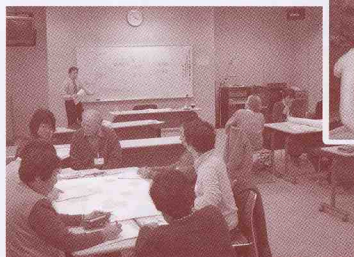


点字を打つ様子は真剣そのもの

ボランティア活動の普及は、地域福祉を推進していく上でも非常に重要なものとなっております。社会福祉協議会としても、今後の福祉教育を進める上で、教育現場との連携は必要不可欠であるだけに、この事業は、年間のボランティア推進へ向け、重要な位置付けになっています。



講師と一緒にバリアフリー調査



講師の声に耳を傾けます

また、年数回のボランティア活動者へ向けた講座を企画しています。

平成19年度はこれからボランティアを始めたいと考えている人に、ボランティア活動についての情報の提供や活動体験を通して、考え方や楽しさを実感し、ボランティア活動を始めるにあたってのきっかけ作りや、具体的な活動への橋渡しを行いたいと、全4回の講義プラス数回のボランティア活動の体験を1つのプログラムとしました。ボランティア活動をしたと思うてはいてもどんなボランティア活動があるかが分からない、活動の雰囲気分からないという声が多い中、参加者からは、「いろいろな体験などで、ボランティア活動へ一歩足を踏み入れるきっかけになりました」「無理をせず、自分にできることで一歩踏み出そうと思えました」などの声を聞くことができました。担当職員としても、参加者や、現在活動されているボランティアの声を多く取り入れながら、講

座の企画をしていくことが大切だと実感する機会となりました。  
平成20年度からはこれまできちんと整理できていなかった登録制度を整備し、ボランティアの需給調整や、ボランティア間の交流の場づくりに活かしていきたいと考えています。

入門講座受講のみなさんと



## ●お問い合わせ

平群町社会福祉協議会 ボランティアセンター  
〒639-0914  
生駒郡平群町西宮2丁目1番6号(プリズムへぐり内)  
TEL:0745-45-5710  
FAX:0745-45-8611



ホットな  
ボランティア  
市民活動



# 「子どもステーション」の取り組み

特定非営利活動法人  
マーマの里

## 私の育児と子育て支援

マーマの里 田丸かよ子

二十年前、仕事と子育ての両立を考えていた私にとっては、想像以上にたいへんなものでした。

一歳七カ月ちがいで生まれてきた二人の娘たち。大学の非常勤講師と、家でのピアノレッスンをしながらの育児。保育所も子どもを預かってはもらえても、すぐ病気になる、熱を出してばかりで、保育所に行けない日が半月ほどあるような状態でした。

無事二人が成人した時、ふと世の中を見ると、老人介護の方にはかり目がいき、子育てが忘れられている世の中。二十年前、苦勞しながら子育てした頃と、子育ての事情は少しも変わっていない。これからの日本を担う子どもたちを大切にしないと日本は滅んでしまうと思ひ、私の専門の音楽を通して、母親も子どもも明るく過ごせる「母と子の音楽サロン」をつくるように思っ

たのが平成四年でした。最近の少子化で、行政も子育て支援に乗り出しましたが、日本の出生率はドイツに次いで下から二番

目です。男性が思う以上に子育てはたいへんです。そこで平成十七年に子育て専門のNPO法人「マーマの里」を設立しました。

サロン事業の他に、子育て支援(ハベィシッター派遣や子ども一時預かり)、妊婦や幼児に聞かせる音楽会を開く事業とつ

どいの広場事業をしています。十九年度は、独立行政法人福祉医療機構の助成をいただきまして、近鉄高田駅前のシヨッピングセンターのオークタウン4Fに、駅前子どもステーションを開くことができ、マーマの里のすべての事業の拠点となる場を設けることができました。ありがたうございました。駅前であることから奈良県中南部各地からサロンに通って来られる方々が増え、シヨッピングもでき、各銀行や郵便局のATMもあるこの場所は、

利用者にもたいへん喜ばれています。

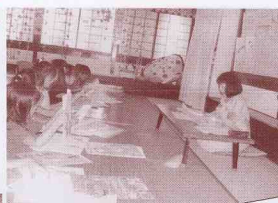
この四月からは自主運営をしなければなりません。オークタウンには、家賃を下げていただき、利用者にもご理解いただき、少しご負担をいただいで運営していく予定です。

この四月からは、0歳児の親と子の音楽サロンをはじめ、1〜2歳児クラス、2〜3歳クラスもあります。

また、土曜日には四歳〜小学生のための「子供のための日本文化教室」「子供朗読教室」「国際交流教室」「幼児体操教室」「英語で遊ぼう」など、どこにもない本場に子どものためになる教室を開いています。

これからの日本を担う子どもたちを学校以外の場所、地域で育てていきたいと思っています。これからもご支援よろしくお願ひいたします。

子供朗読教室



中国の遊び



### ●お問い合わせ

特定非営利活動法人  
マーマの里

〒635-0065  
大和高田市東中2丁目  
13番23号

TEL:0745-22-1438  
FAX:0745-22-1438



# 障害者の「ＩＴ習得とＩＴ就労」 等の取り組み

NPO法人地域活動支援センター  
ぷろぼの

生駒市西菜畑にありますNPO法人地域活動支援センター。ぷろぼのです。簡単に施設紹介をさせていただきますと、平成15年4月に開所前までは「福祉作業所」として活動を開始しました。当時、パソコン事業は行っていませんでした。そして3年後の平成18年9月、NPO法人を取得し同時に自立支援法で言います「新体系」へと移行しました。その際、施設事業も「ＩＴ事業」へと変わりました。当施設は奈良県で唯一、福祉施設事業を「ＩＴ」中心に活動しています。「ＩＴ」と一言で表現できませんが、かなり広範囲で奥の深いもので、まったく知らない人、興味のない人には「関係ないよ」という状態です。知っている人には「何が出来る、何を行っているの」という疑問が生じるでしょう。では、正式な事業名称でいいますと、障害者就労移行支援事業、障害者就労継続事業、地域活動支援センターⅢ型事業、障害者職業訓練指定と4事業を行っています。では、具体的にパソコンで何をしているかと言いますと、ホームページの作成、チラシやポスターの作成、障害者を対象としたパソコン教室、等々を行っています。しかし、ここでまたまた疑問が生じるのでは、「本当に障害者にパソコンを使って訓練や仕事をしているの？」、行っています。ある利用者さんは本当に4年前までは

パソコンをまったく知らなかった人で、その人は現在フラッシュという動画やアニメーションをつくるソフトを自由自在に扱っているいろいろな作品を作っています。同時にホームページ作成もできています。また、違う利用者さんはワード・エクセルが出来るので同じ利用者さんの指導にあたってくれたりもしています。そして、来ている利用者さん全員に言っているのが、ここは事業訓練、仕事という部分でパソコンを使っていますが、あくまでもパソコンは単なる道具であり、それ以上それ以下でもありません。まずみなさんがこの道具を使って慣れ親しむ、そして楽しんでもらう事が第一です。「モニターの前は全ての人が平等であり、キーボードの回りの相手は世界です」とも言っています。もちろん綺麗な事はかりではなく、「危険やリスク」があるという事も伝えていきます。

は喫茶スペース、子育て支援のための「つといの広場」、障がいのある方の就労支援スペース、また、気軽な相談コーナーもあります。2008年現在の利用されている人は、両施設を合わせますと、移行支援訓練で約15名、継続支援で約5名、地域活動支援8名(生駒のみ)です。近況をお話しますが昨年、ソフトバンク「社会的投資プログラム」からの助成金をうけ「Renal」という障害のある方が受けることができる福祉サービスを分かりやすく、ご自身の障害に関係あるものだけを特定して、見ることが出来るホームページを作成しました。これに関しては「パソコン版」と「携帯電話版」とを作成しました。各行政の障害福祉課や主な福祉施設には情報提供させていたたいしています。

を中心に英会話講習なるものも行っています。施設側としても新体系に移行してこの1年色々々と勉強させていただきました。その中でも当たり前ではありませんが、利用者自身が興味をもった事を大切にし、興味が出る様な事柄を一緒に見つけるということが施設側の仕事ではないかと再認識させてもらいました。



パソコンだけでなく勉強時間ということで公文を取り回しています。

利用者さんも事業移行した当初に比べ現在はかなりの人たちが利用され、施設も2007年10月から「高の原」に当施設の2番目の事業所というかたちでもう一つ開所いたしました。「高の原」の事業所名を「だれでも広場からんぐらん」と言い、この施設の目的は子育て中のママや、障がいのある人たちを含めて地域の人たちが気軽に立ち寄ることのできる居場所、事業所内に

は喫茶スペース、子育て支援のための「つといの広場」、障がいのある方の就労支援スペース、また、気軽な相談コーナーもあります。2008年現在の利用されている人は、両施設を合わせますと、移行支援訓練で約15名、継続支援で約5名、地域活動支援8名(生駒のみ)です。近況をお話しますが昨年、ソフトバンク「社会的投資プログラム」からの助成金をうけ「Renal」という障害のある方が受けることができる福祉サービスを分かりやすく、ご自身の障害に関係あるものだけを特定して、見ることが出来るホームページを作成しました。これに関しては「パソコン版」と「携帯電話版」とを作成しました。各行政の障害福祉課や主な福祉施設には情報提供させていたたいしています。

訓練生の方も、移行支援の場合期間が2年間の訓練と決められています。第1期の訓練生も2008年3月で1年目が終わり次のステップへと日々訓練と業務にはげんでいます。デザイン系のソフトに新たに興味を持ち始めた利用者もでてきましたし、文書などの打ちこみが早く、なうた人もいます。中には、もともと英語がペラペラ喋れる利用者もいます。彼は身体障害ですが、周りに「英語を習いたい」という人もでてきて彼

## ●お問い合わせ

NPO法人  
地域活動支援センター  
ぷろぼの

〒630-0264  
生駒市西菜畑町1521

TEL: 0743-75-3177  
FAX: 0743-75-3177



地域福祉・ボランティア関係  
**助成金  
情報**

## 民間助成金

民間助成金とは、民間の財団法人や企業が、公益活動の一環としてボランティアグループ、NPO法人、社会福祉施設などが行う活動に対して助成を行うものです。助成の方法には、活動経費を助成する場合と、活動に要する現物を助成する場合があります。

県社協では、下記の民間助成金についての周知、申請取り扱い、推薦事務等を行っております。

また、その他の民間助成金は奈良ボランティアネット (<http://www.nvn.pref.nara.jp/>) の「助成制度」でもご案内しています。詳しくは奈良県総合ボランティアセンター (TEL.0744-29-0155) までお問い合わせ下さい。

※ 対象中「VG」= ボランティアグループ、「住参」= 住民参加型在宅福祉サービス提供団体、「社福」= 社会福祉法人、「NPO」= 特定非営利活動法人、「各団体」= 福祉を目的とする団体(法人格不問)、「不問」= 特に定められていない。

実施団体(問い合わせ先)	助成金名	対象	助成内容	募集期間(予定含む)
奈良県社会福祉協議会 奈良県中央善意銀行 (TEL.0744-29-0155/ 26-0233)	住民と協働し、社会資源として地域に福祉的効果を還元できる事業	VG・ 福祉作業所・ NPO団体・ 社会福祉施設等	30万円	平成20年4月1日 ～5月31日
	福祉分野で特に整備や支援が立ち後れている分野を対象とする事業			
	要援護者への理解を深めるため地域社会に啓発を促す事業			
	小規模作業所に対する初年度物品整備費	新規福祉作業所	30万円	通年
[24時間テレビ]チャリティー委員会 (TEL.06-6947-2844)	[24時間テレビ]チャリティー キャンペーン	施設・各団体	リフト付バス・入浴車 リフト付軽・普通自動車等	平成20年4月1日 ～5月31日
みずほ教育福祉財団 (TEL.03-3596-4532)	老後を豊かにするボランティア活動資金	VG・住参	10万円	平成20年5月31日
大阪ガスグループ福祉財団 (TEL.06-6205-4686)	高齢者福祉活動助成	VG・ 在宅福祉サービス事業者	30万円	平成20年7月1日 ～8月31日 社会福祉協議会へ必着
財団法人松翁会 (TEL.03-3201-3225)	社会福祉助成金	法人施設・各団体(例外あり)	80万円	平成20年7月31日
大和証券福祉財団 (TEL.03-3665-5147)	ボランティア活動助成	ボランティア目的団体(法人格不問)	30万円	平成20年8月1日 ～9月15日
社会福祉法人奈良県共同募金会 (TEL.0744-29-0173)	赤い羽根共同募金による住みよい地域づくり支援事業	奈良県内に活動拠点を おく団体(NPO法人、VG等)	経費の3/4以内 50万円限度	平成20年8月1日 ～10月31日
独立行政法人福祉医療機構 (TEL.03-3438-0211)	高齢者・障害者福祉基金「地方助成」 子育て支援基金「地方助成」 障害者スポーツ支援基金「地方助成」	法人・各団体	200万円	平成20年9月1日 ～10月31日
キリン福祉財団 (TEL.03-5540-3522)	公募助成	各団体	50万円	平成20年9月中旬 ～11月中旬
森田記念福祉財団 (TEL.0743-56-9160)	ボランティア団体に対する社会福祉助成金	VG・NPO等	20万円	平成20年11月中旬 ～平成21年1月31日
親切会 (TEL.0798-65-9717)	現在福祉的な活動を行っている施設・団体・ボランティアグループ支援事業	公の補助金が少なく、規模の小さい施設・団体・VG	5万円	平成20年12月中旬 ～平成21年1月中旬
日本社会福祉弘済会 (TEL.03-3846-2172)	社会福祉助成事業	法人・各団体・グループ	50～100万円	平成20年12月31日
社会福祉事業開発基金 (TEL.03-3497-1408)	社会福祉事業研究開発基金	社福・NPO法人・VG・各団体	100万円	平成20年8月1日 ～9月30日

# ボランティアセンター

## こぼれ話

ボランティアセンターに大型長尺印刷機「プロッター」が導入されて1年以上たちます。

予想以上の稼働率で、垂れ幕などの作成にご活用いただいています。

大きなプロッターから、何メートルもの印刷物が、ゆっくりゆっくり出力されると、ミーティングに訪れていた他のボランティアグループの方々などが、通りがかり覗いて行かれます。

「これは何の講演会ですか?」「いつ開催されるのですか?」「詳しい資料ありますか?」  
といった行事内容に関する質問や、「グループのシンボルマークを付けるだけで、見栄え変わりますね」  
「うちも今後のイベントには、こういうのを作ったらいいね」「作成料はいくら?」

「会場はどこ?」「その会場使いやすい?」などなど、

これまで交流のなかった団体どうしが、足を止め話に花が咲く様子をよく見かけるようになりました。

プロッターをご利用になる際には、そのイベントやグループの資料などもぜひご持参くださいね。



### 社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会 奈良県総合ボランティアセンター

〒634-0061 奈良県橿原市大久保町320-11  
奈良県社会福祉総合センター 2階

- TEL : 0744-29-0155 · 0744-26-0233
- FAX : 0744-26-0234
- E-mail : info@nvn.pref.nara.jp
- 開所時間 : 月～土曜日 / 8:30～17:15

奈良ボランティアネット  
<http://www.nvn.pref.nara.jp>

## 編集後記

先日、ある中学校からの依頼で、2学年(200名程度)を対象に「ボランティアってなんだろう」という話をしました。

今まで何度でも人前で話をしていますが、この年代を対象に話をしたのは初めてでした。

彼らの年代にあわせた言葉や表現を選んで資料もつくり話もしたつもりですが、少しでも理解してもらえたかなという不安は残りました。

数日して、担当の先生から何人かの生徒さんの感想文をいただきました。

ドキドキしながら読ませていただきましたが、「少しでもボランティアのことが理解できた」とか、「ボランティアに興味を持った」という感想をいただきました。

久しぶりに感動したのと併せて、人に想いを伝えることの難しさを改めて感じました。(まえ)